

まちぴあ通信

To create a better city with our own hands.

冬
号

特集

ひらかれた学びが、まちを育てる

～自分らしく学べる学校から考える、これからの教育と地域～



表紙の写真：城山西小学校のシンボルでもある「孝子桜」



YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

特集

ひらかれた学びが、まちを育てる

～自分らしく学べる学校から考える、これからの教育と地域～

小規模特認校として新たな挑戦を続ける城山西小学校。その魅力を探るために松島副校長にお話を伺うと、地域とともに育まれてきた温かな学び場の様子が見えてきました。

小規模だからこそ生まれる あたたかさ150年の歴史を持つ学びの場

宇都宮市の西側、古賀志山の麓にたたずむ城山西小学校は、創立150周年という長い歴史を持ちながら、平成17年度からは小規模特認校として新たな挑戦を続けています。副校長の松島先生は、「少人数だからこそ、一人ひとりの表情や変化に気づきやすく、丁寧に関わることができる」と話します。

学年を越えた交流や日常的な対話の積み重ねは、「ここにいていい」と感じられる安心感を育み、子どもたちの自己肯定感の土台となり、自分らしく学ぶ力へとつながっています。

地域行事としての「孝子桜まつり」が育むもの

校庭には、学校のシンボルでもある「孝子桜」があります。毎年春に行われる桜まつりは、地域と連携して開催される恒例行事です。

このまつりを通して、子どもたちは地域の大人と関わり、自分たちが暮らすまちの文化や人の温かさに触れていきます。地域の一員として行事に参加する経験は、学校とまちとの距離を縮め、社会の中で生きているという実感を育む機会となっています。



▲ 気球搭乗体験の様子

古賀志桜スクールがひろく、教科を越えた学び

隣接する「古賀志桜スクール」では、放課後や特色ある学びの場として、英会話や演劇などの表現活動、箏、自然体験などが行われています。教科の枠を越えた活動を通して、子どもたちは自分の興味や得意なことに出会い、学びの幅を広げていきます。

地域の方々の協力によって支えられるこのスクールは、学校を地域にひろくと同時に、地域が持つ知恵や経験を次世代へとつなぐ役割を担っています。



▲ 児童たちが箏を演奏する様子



▲ 校庭の孝子桜が満開になっている様子

本物に触れ、地域とともに学ぶ日常

城山西小学校では「会話科」を20年前から学習活動に導入し、読み聞かせや演劇、民話語り、地元アナウンサーの協力による番組づくりなど、学年の成長段階に応じた授業を行っています。

また、書、石膏を用いた造形活動、箏、ダンス、陶芸の文化人を招いた授業を通し、「本物に触れること」を大切にしています。

給食では地産地消を意識し、学校の農園で育てた野菜を使用したり、卒業生である農家の方が食材を届けてくれたりすることもあります。さらに、学校北側にある古賀志山では、地域の方々の協力のもと清掃登山や生活科での裏山探検などを実施し、子どもたちは実際に「見て、触れて、感じる」学びを重ねています。



▲学校の農園で採れた野菜の様子。
城山西小学校オリジナル給食「鍋給食」が子どもたちに大人気。

人を尊重する力が育つ環境

市内全域が学区であることも、この学校の特徴です。

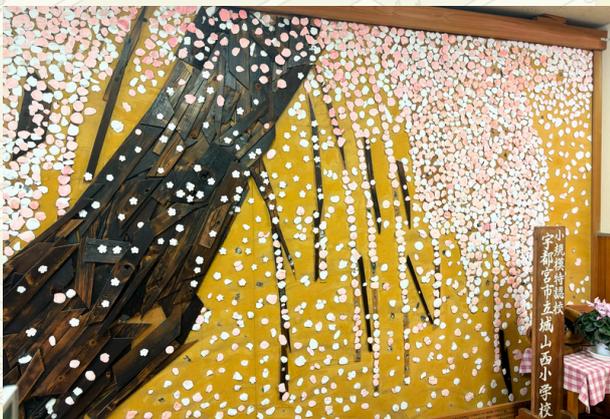
市内全域、様々な環境に住む子供たちが集まります。始めはみな知らない子供たち同士であっても、家族のような環境で学校生活を送る中で、他者を尊重する力が育まれていきます。

少人数制のため、授業では一人ひとりに寄り添った丁寧な指導が可能です。

3年生から6年生の算数では、習熟度担当教員を含む、2名体制での指導が行われ、よりきめ細かな学びが実現しています。

教職員同士のコミュニケーションも活発で、「個に寄り添うこと」を大切にされた環境づくりが意識されています。

10年前には「奇跡の小学校の物語」として映画化され、新しく配属された教員は、着任時にそのショートバージョンを視聴するそうです。



▲児童と文化人の先生が協働して制作した「孝子桜」の作品



▲マスコットキャラクターの「こがざくらちゃん」

学校が続き、つながっていくために

城山西小学校は150年の歴史を持ち、「小さな学校だからこそできること」を理念に歩んできました。目指しているのは、「学校が続いていくこと」、「そして地域とつながり続けること」。

AIやデジタル技術が進展する時代だからこそ、人との関わりやぬくもりを大切にする教育の価値は、これからますます重要になります。

学校がひらかれることで、まちもひらかれていく。城山西小学校の取り組みは、これからの教育と地域のあり方を静かに示しています。

編集後記

取材を通して、学校は学ぶ場であると同時に、子どもたちにとって安心して過ごせる“居場所”だと感じました。地域とのつながりが、その居場所をさらに豊かにしていることに気付かされました。これからも、地域とともに子どもたちの可能性を広げ、自分らしく学べる場であり続けることを、心から願っています。(森・前澤)

うつのみや自治会39 第2回「河内地区連合自治会」

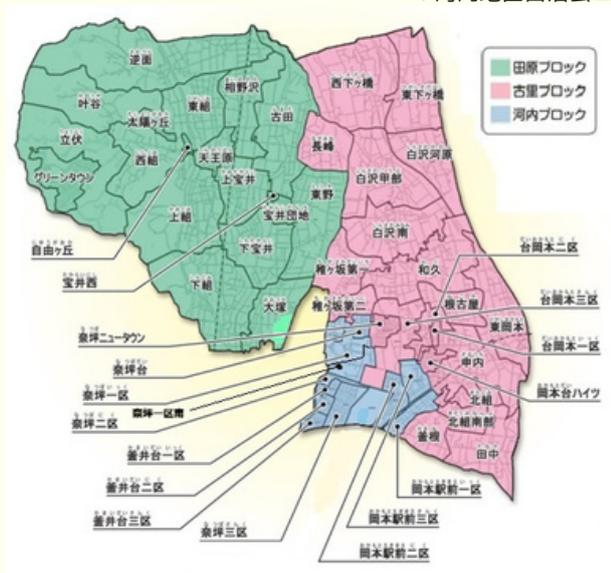
地域の和を未来につなぐ 河内づくり

宇都宮市には、782の単位自治会（令和7年12月現在）があり、これらの単位自治会は、39の地区ごとに連合自治会としてまとまっています。このコーナーでは、住民にもっとも身近なコミュニティ組織として頑張っている各地域の自治会に焦点をあて、地域や活動の魅力についてご紹介します。今回は、51の単位自治会を有する「河内地区」をご紹介します。

▼河内地区の位置



▼河内地区自治会エリア図



河内地区ってどんなところ？～地区の歩みと今～

河内地区は、宇都宮市の北東部に位置し、東は鬼怒川を挟み、さくら市・高根沢町と接しています。縄文・古代・中世の遺跡も多数発掘され、江戸時代に奥州街道の第一宿として大いに賑わった白沢宿があるなど、長い歴史を有しています。

▼河内ブロック（ゆうすい公園）



▼古里ブロック（彫刻屋台）



▼田原ブロック（逆面獅子舞）



1955（昭和30）年、古里村と田原村が合併して河内村となり、1966（昭和41）年に、町制施行により河内町が誕生しました。2007（平成19）年、宇都宮市・上河内町・河内町の一市二町による合併により、宇都宮市となりました。

東部の低地及び台地が全体の約8割を占め、西部の丘陵地が2割を占めており、鬼怒川水系など水利に恵まれています。さらに、昭和30年代以降、岡本工業団地の誘致などが行われ、農業・工業ともに盛んな地域です。

宇都宮市に隣接した立地条件から宅地開発が進みながら、貴重な自然環境と地域社会の調和を目指したグランドワーク活動や、日本初となる1971（昭和46）年の「スポーツの町宣言」以降取り組んでいる、住民の健康増進を目的とした様々なスポーツを通じた住民の交流活動など、活発な「河内づくり」が現在も受け継がれています。

地域の担い手と楽しい河内地区を未来へ

柔軟な自治会運営 ～笑結 & かわち自治会応援隊 の活動～

自治会加入率の低下、役員などの担い手不足など、他の自治会と同じような問題を河内地区も抱えています。しかし、河内地区には強みがあります。地域の中学生を中心に地区イベントの企画運営を行うグループ「笑結」（えむすび）です。2023年に発足し、中学生たちが企画を自分たちで考え、実行します。大人たちは、相談にのる・見守るという後方支援に徹しています。

子ども達は、自分たち発案のイベントが現実となり、実際の運営にも関わること、学校だけでは味わえない達成感と、成功させる喜びの味を占めるような仕組みがつくられています。

こうした、中学 → 高校 → 大学と年齢を重ねても、楽しく地域活動に参加し続けたい工夫は、河内地区の大きな特徴といえるでしょう。

▼若さはじける中学生チーム「笑結」



▲河内地区を盛り上げたい！で集う「応援隊」の皆さん

地区の将来を見据えて ～柔軟性のある自治会運営～

河内地区には、もう一つ「かわち自治会応援隊」という特徴的な活動組織があります。応援隊は、コロナ以降の活動再開のために行った、宇都宮大学生など若い世代との意見交換を契機（令和6年6月）に発足した団体です。地区内の企業、育成会、消防団の方々だけでなく、大学生など、河内地区内でのボランティア活動を希望する地区外の方々も参加できる団体です。

地区内の「困りごとを解決する」という目的のもとに、地区外の専門的知識や技能を提供してもらうことで、単位自治会活動の活性化を促すことを目的に活動しています。

自治会役員をはじめとした地域活動団体の担い手不足や活動の減少傾向は、これまでの運営方法では改善が困難であるかもしれません。そうであれば、自治会自体が、従来の組織を改め「困りごと解決」というようなテーマのもとに集まる、応援隊のような団体が自治会を支えるとともに、自治会が担う役割を見つめ直すことで、より無理なく続けられる自治会が創出されていくと思います。

自治会を存続するためには、参加のハードルを下げ、誰でも気軽に楽しめるコミュニティに変えていくという柔軟な発想が、これからの自治会活動の活性化の秘訣になるかもしれません。

【問合せ先、インフォメーションなど】

河内地区まちづくり協議会事務局
(河内地区市民センター内)

ホームページ、Instagram もあります。
ぜひ、チェックして下さい！

【編集後記】

記事担当者は10年以上も、河内地区内の小学校や図書館でのボランティア活動（バルーンアートの提供）でつながりがあり、個人的にとっても愛着のある地区です。いつお邪魔しても温かく迎え入れて下さる「和のまち・かわち」を、微力ながら応援していきたいです。

読む×食べる×子どもたち

陽東書林(ようとうしょりん)のやさしい空間



宇都宮大学陽東キャンパス近くに、読書・食事・学童保育がひとつになったちょっと特別なお店があります。

今回は、その「陽東書林」のオーナーにお話を伺いました。

大学近くに生まれた“ほっとする場所”

宇都宮大学陽東キャンパスから徒歩1分。峰キャンパス周辺に比べ、陽東キャンパス付近は学生向けのお店が少なかったことから、この地を選んだといいます。店内に並ぶレトロな机や椅子は、オーナーの実家が営む学習塾で使われていたもの。DIY好きのオーナーが内装を手掛け、壁一面の本棚には趣味で集めた本がずらりと並びます。なかでも、雑誌『暮らしの手帖』の美しい表紙が印象的です。

子どもと学びを見守り続け

オーナーは保育士・調理師の資格を独学で取得し、学生時代は心理学を専攻。小児病棟での学習ボランティア経験もあり、子どもに関わる仕事は25年目になります。2014年の開店と同時に飲食と学童保育をスタートし、現在も保育士として働きながらお店を切り盛りしています。

からだにやさしい定食

看板メニューは、学生を応援する手頃な価格の週替わり定食。大学の学食では肉や魚を食べられると考え、野菜中心の献立にしているそう。「家ではサラダを食べないので助かります」と学生からも好評です。家庭菜園で育てた野菜や、自家製赤じそを使ったドリンクなど、手作りの温かさもお店の魅力です。

▼週替わり定食は学生650円、一般750円(取材時)



基本情報

宇都宮市陽東7-6-29

ランチ11:00~14:30/学童15:00~22:00(月~金)

営業日時はHP・SNSをご確認ください

Instagram: @yotoshorin

URL: <https://yotoshorin.stars.ne.jp/>

問い合わせ先

Email: yotoshorin@gmail.com



単発利用できる学童

「必要なときにだけ預けられる場所をつくりたい」とはじめて学童は、陽東書林ならではの取り組みです。子どもたちは放課後に来て宿題を終え、おやつを食べ、静かに読書や工作をして過ごします。人気のおやつはフレンチトーストやパフェ。長期休みには相談があれば朝からの預かりにも対応しています。「赤ちゃんの頃から来ていた子が小学生になり学童を利用してくれると、成長を感じられて嬉しいです」とオーナーは話します。

▼オーナーお手製デザートプレート!送別会や推し活にも◎



まちに寄り添う小さな拠点

朝はモーニング、昼は学生向け定食、午後は喫茶と学童、夜には果実酒を楽しむ社会人の姿も。2階はフリーマーケットエリアとして様々な世代の人が集います。「気になっている方はまずテイクアウトでも気軽に利用してみてください。学童を検討中のご家庭も、お子さんと一緒にぜひお食事がてらお店の様子を見に来てくださいね」とオーナーからメッセージをいただきました。地域の子どもから学生、大人まで、誰もがふっと立ち寄れる陽東書林。そこには、まちにそっと寄り添う温かな居場所がありました。

学童利用案内

料金: 最初1時間1,000円/以降1時間500円

※登録時保険料(年355円)別途

利用: 要予約(前日まで)

サービス: おやつ・飲み物付き

夕食(希望がある場合19:00~)3時間以上無料/3時間未満450円

取材こぼれ話

ロゴの「しよーりんくん」はオーナーのお子さんが小さい頃に描いた絵がもとになっているそうです。ご協力ありがとうございました。(和地)

話題のこれ！

商品紹介



レモネードスタンド♡ラブルリ 「レモネードに込めた未来への願い」

悲しみを力に変えて立ち上がった活動

宇都宮市を拠点に活動する「レモネードスタンド♡ラブルリ」さんは、小児がんと闘う子どもたちに希望を届けるためのチャリティ活動をしている団体です。代表おおたわ りょうこの大田和涼子さんは、急性骨髄性白血病で5歳の娘・瑠璃ちゃんを亡くした経験を胸に、「すべての子どもたちに生きる未来を」という強い願いを込めて団体を立ち上げました。

深い悲しみを抱えながらもその想いを行動へと変え、病気と向き合う子どもたちや家族を支えたいという気持ちが活動の原動力になっています。



優しさを広げる存在として

売上は寄付に充てられ、活動は2025年3月に1周年を迎えました。爽やかなレモネードの一本には、未来への希望と、子どもたちの笑顔を守りたいという大田和さんの深い願いが込められています。スタンドを訪れた人々との交流は、悲しみを希望へと変える力となり、地域に温かなつながりを生み出しています。

「レモネードスタンド♡ラブルリ」の活動は、単なる募金活動にとどまらず、子どもたちの未来を支える輪を広げる大切な役割を果たしています。大田和さんの想いに共感した人々が集まり、レモネードを手取る瞬間から、優しさと希望がさらに広がっていくことを願っています。



▲2025年9月作新祭での様子（大田和さん右から2番目）

レモネードスタンドがつなぐ支援の輪

アメリカ発祥のレモネードスタンドは、子どもたちがレモネードを販売し、その売上を小児がんの研究や患者支援に寄付する取り組みとして知られています。日本でも徐々に広がりを見せるこの活動を、大田和さんは宇都宮の地で自らの手で実践しています。

イベント当日には、大田和さん自身がスタンドに立ち、訪れた人々に一本一本丁寧にレモネードを手渡します。その際、病気のことや支援の必要性をやさしく伝え、レモネードを通じて多くの人々が小児がんについて知るきっかけをつくっています。

【お問い合わせ先・SNS】

レモネードスタンド♡ラブルリ

代表：大田和涼子

✉ ryoooco0903@gmail.com



Instagram、オンラインbaseストアはこちら↓



@RYOOCOCO



@LS_LOVERURI



オンラインストア

地域や誰かのために活躍する宮っこを紹介！

vol.3 このまちの、あのコの話！ 「人生にちょっとした疑問と揺らぎを」

雀宮の街角で、チャリンチャリンと音を立てて走る木のめくもり溢れる屋台自転車。その自転車を走らせているのが学生団体「すすめ！たんけんたい」です。

「人生にちょっとした疑問と揺らぎを」—そんなコンセプトを掲げ、彼らは2024年に活動をスタートさせました。きっかけは、自分たちの「失われた高校時代」。コロナ禍によって、人との出会いや新しい経験が制限されたまま卒業を迎えた悔しさ。「今の中高生には、自分たちと同じ思いをさせたくない」という強い想いが、彼女たちを突き動かしました。

その象徴が、地元の雀宮にある高校と協力して一から作り上げた移動式居場所「とまりぎちゅんちゅん丸」です。設計から組み立てまで、高校生と一緒に汗を流した3ヶ月間。完成した自転車は、ある時は駄菓子屋、ある時は古本市、またある時は絵本の読み聞かせの場へと姿を変え、特定の場所にとらわれない、特定のことにとらわれない“動く居場所”として雀宮に交流拠点を創出する取り組みを進めています。彼女たちは「心の揺らぎこそが、新しい自分を見つける一歩になると実感しています。決まった正解だけじゃない。迷うことこそ、可能性だと思うんです」そう語ります。

現在は雀宮の2つの高校と連携し、生徒たちの「やりたい」を形にする伴走サポートに力を入れています。雀宮という街を、誰もが立ち寄れて、ちょっとだけ人生を冒険できる場所にしたい。若き探検隊の挑戦は、まだ始まったばかりです。

【今回の“あのコ”】学生団体「すすめ！たんけんたい」メンバー

2024年、雀宮を拠点に活動開始。現役大学生を中心に構成され、「移動式居場所」という独自のスタイルで、地域の中高生へ多様な出会いと挑戦の機会を届けている。愛車の「ちゅんちゅん丸」と共に、今日も雀宮のどこかに出没中。



「すすめ！たんけんたい」のみなさん

登録団体紹介

楽しみながらも進化し続けるスイーツラン / ミヤラン実行委員会

宇都宮環状道路の歩道を、スイーツを食べながら楽しく走るランニングイベント、それがミヤランです。宇都宮の魅力を確認し、誰にでも走る楽しみを感じて欲しいという思いから、2012年にスタートしました。

毎年開催する中で、環境問題への配慮や、地域活性化のための取り組みなど、多面的な視点を取り入れてきました。中でも地元企業とスイーツ店から協賛を募り、それをご褒美に走るというアイデアで、初心者でも参加しやすいファンランの先駆けとして、全国からたくさんのランナーが集まっています。

例年、ハーフミヤランやちびミヤランなど年齢や体力に応じたコースを設けていましたが、今回新たに「ほのぼのミヤラン」という様々な立場の方が走れるコースを新設しました。15周年を迎え、一層走る面白さを実感でき、誰もが楽しめるイベントへと歩みを進めています。

現在は、参加者と運営をサポートするボランティアを募集しています。今年も、熱く楽しく進化するミヤランに注目です。

団体名 ミヤラン実行委員会
活動場所 宇都宮城址公園及び宇都宮環状道路
開催日 2026年4月12日(日)(ミヤラン開催日)
連絡先 miyarun.office@gmail.com
Instagram : miyarun_official
代表者 堀江則行



おりがみで広がる笑顔の輪 / 銀のORIGAMI

「おりがみは素敵な出会いと体験を演出してくれるもの」と語ってくれたのは、おりがみを通じて指先から元気を広げる「銀のORIGAMI」代表の橋本和善さんです。月に2～3回、地域の高齢者施設を訪れ、“おりがみで脳活&笑顔”をテーマにしたレクリエーション活動を行っています。

活動のきっかけは、何か新しいことを始めたいという思いから参加した、“まちびあ起業講座”でした。「やらない人はいつまで経っても始めない」という講師の言葉に背中を押されたとのこと。さらにご親族の認知症を通して、おりがみが持つ脳への良い影響を知ったことが団体設立の決め手となりました。また、本格的におりがみを扱うボランティア団体が少なかったことも、設立の意欲をかきたてたそうです。設立当初は脳活をメインの目的としていましたが、おりがみを折ること自体を楽しんでもらうことのほうが重要だと気が付いたといいます。今後は活動の仲間を増やし、それぞれの視点を生かしたイベントにも挑戦したいとのこと。橋本さんの行動の一歩は今、指先から広がるおりがみを通じて、地域に確かな笑顔とつながりをもたらしています。

団体名 銀のORIGAMI
活動場所 宇都宮市内の高齢者施設
活動日時 月2回程度(午後約1時間半)
連絡先 gjin.no.origami@gmail.com
Instagram : gjin_no_origami
代表者 橋本和善



連載コラム

地域づくり・まちづくりと社会教育（3） ～多文化共生と社会教育～

若園 雄志郎 准教授 / 宇都宮大学 地域デザイン科学部

初回より図書紹介としてはアイヌ民族に関するものを選定してきました。ご存じの通り、アイヌ民族は北海道・東北地方を中心として居住してきた先住民族です。私は幼少期を北海道釧路市で過ごしましたが、残念ながら記憶をたどってみても、学校や地域でアイヌ民族に何か関係するような経験があったかどうかはつきりしません。唯一覚えているのは博物館展示で見たことです。小学生の頃に市立博物館が開館したのですが、家の近所であったので頻りに訪れていました。あの非日常的な空間が気に入っていたのかもしれませんが。

その後大学でアイヌ語の授業を受けたり、アイヌと社会教育（博物館教育）に関して調査研究をしたりしたので、結果的にその時博物館での展示を見たことがアイヌ民族に関する興味関心をもつきっかけとなったといえるでしょう。このことは何か知識に触れる機会とそれを深めていく機会の両方が大切であることを示しているように思います。

以前、大学にいた何人かの北海道出身の学生に、アイヌ民族について何か知っているかを聞いてみたことがあります。それらの学生からは「日本史の授業で聞いた気がする」「博物館で踊りを見たことくらいしか覚えていない」というような芳しくない答えが返ってきました。



一方でマンガ・アニメ・映画でヒットした「ゴールデンカムイ」の影響でアイヌ文化に関心を持ったという学生も少なくありません。博物館であってもマンガであっても、それぞれアイヌ民族に関する知識を得る何らかのきっかけ自体はあったといえるので、それをいかに深めていくか、広げていくかが課題となるでしょう。社会課題について一番の問題は無関心であるといわれることがあります。このアイヌ民族の文化・歴史・社会状況について、栃木県在住の人たちにとっては関係ない話だ、あれは北海道独特の地域問題だ、としてしまうことは、やはりこれも無関心といっていいのではないのでしょうか。

今回はアイヌ民族を取り上げましたが、多文化共生といった場合、文化が異なる外国人をめぐる課題もありますし、高齢者や障がい者についての課題も含まれてくるでしょう。「共生」とは確かに「共に生きること」ではあるのですが、その前提として社会的な立場が果たして平等であるのかに気をつける必要があります。よい社会・よい地域は、よい個人から広がっていきます。ぜひ周囲にある「多文化」にアンテナを伸ばしてもらえればと思います。

<書籍紹介>

加藤 博文 / 若園 雄志郎 編
『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』
山川出版社 2018

まちぴあからのお知らせ

フェスタmy宇都宮2026を開催します！

4月1日の「宇都宮市民の日」を記念して、今年も宇都宮城址公園にて「フェスタmy宇都宮2026」が開催されます。このイベントでは、市民の皆さんが参加団体の日頃の活動成果を見たり、交流したりできる場として、宇都宮の魅力を再発見・再認識できる機会となっています。屋台やステージなど、楽しい催しも盛りだくさんです。

まちぴあでは「まちぴあひろば」を出展し、まちづくり活動を行う登録団体の皆さんに出演していただきます。ぜひ、団体の活動を見たり体験したりしながら、まちづくりの楽しさを感じにいらしてください。



日時 5月17日(日) 10:00~15:00

会場 宇都宮城址公園、みどりの小径 他

令和8年度 宇都宮市市民活動助成金交付事業 交付団体募集

宇都宮市では、NPO法人やボランティア団体といった市民活動団体の活動を支援する目的で「市民活動助成基金」を設置しています。この基金を活用して、「新たに事業をはじめたい」「事業を拡大したい」と考える市民活動団体を募集します。

受付期間 令和8年2月16日(月)から3月19日(木)まで

お問合せ 宇都宮市みんなでまちづくり課 市民活動グループ
TEL:028-632-2288 E-mail:u2207@city.utsunomiya.tochigi.jp

申請方法 申請用紙に必要事項を記入のうえ、市役所10階 みんなでまちづくり課窓口、またはまちぴあ窓口
に直接ご提出ください。申請用紙は、みんなでまちづくり課、まちぴあ、市の各出先機関に設置してあります。また、宇都宮市のホームページからダウンロードすることも可能です。

まちぴあ新規登録団体

- ・ **着物クラブ**
着付け指導・体験を通じた文化交流活動。
- ・ **宇都宮市政研究会**
宇都宮の市政、まちづくりを研究・検討する有志の研究会。
- ・ **宇都宮SGGクラブ**
市内を中心とした、外国人旅行者への案内通訳などの国際交流活動。
- ・ **尺八・ギターの会 桜奏**
尺八、ギターの指導及び市内福祉施設等での演奏ボランティア活動。

市民活動助成基金

～ご協力ありがとうございました～

宇都宮市では、ボランティア、NPO活動を活発にし、全市民的に広げていくため、これらの活動を市民、企業、行政のみんなで支える仕組みとして「市民活動助成基金」を設置しています。ボランティア団体やNPO法人の活躍により、宇都宮を元気あるすてきな街とするため、市民の皆さまのご協力をお願いいたします。

- ・ 株式会社アイ・レック
- ・ 成常建設株式会社
- ・ 協和測量設計株式会社
- ・ 株式会社美雪興業
- ・ 株式会社本澤建設設計事務所
- ・ 株式会社酒井建設設計事務所
- ・ 岩村建設株式会社
- ・ 北関東工管株式会社
- ・ エステート住宅産業株式会社
- ・ 岩原産業株式会社
- ・ 株式会社興建
- ・ 株式会社清建

- ・ テクノ産業株式会社
- ・ 栄商事株式会社
- ・ 株式会社フケタ設計
- ・ 宇都宮文化センター株式会社
- ・ 株式会社長嶋組
- ・ 関東インフォーメンマイクロ株式会社
- ・ 和田工業株式会社
- ・ いずみ産業株式会社
- ・ 大幹建設株式会社
- ・ 日豊工業株式会社
- ・ 株式会社エム・プロダクト
- ・ 株式会社水戸設備工業
- ・ 株式会社太陽警備保障
- ・ 東栄電設株式会社
- ・ 株式会社宇東電設
- ・ 株式会社増淵組
- ・ 株式会社小牧工業
- ・ 株式会社五光
- ・ 宇都宮屋台横丁(株式会社村上)

- ・ 有限会社誉幸電気工業
- ・ 株式会社WinWinコーポレーション
- ・ 株式会社ベル電気設備センター
- ・ 株式会社創建設計
- ・ 株式会社石井機械建設
- ・ 谷村電機株式会社
- ・ 藤井建設株式会社
- ・ 晋豊建設株式会社
- ・ 有限会社山崎企画設計
- ・ 株式会社ネットコア
- ・ パスキン工業株式会社
- ・ 藤電設株式会社
- ・ 三木プラント株式会社
- ・ 日昌測量設計株式会社
- ・ 宇都宮ヤマイチ株式会社
- ・ 柴田建設株式会社
- ・ 株式会社渡辺有規建築企画事務所
- ・ 東洋測量設計株式会社
- ・ 株式会社シンエイ企業
- ・ 株式会社菊池組

- ・ 株式会社永神工業
- ・ 株式会社美工電気
- ・ 高橋 幸夫 様
- ・ 城山地区連合自治会
- ・ 宇都宮ピアノ研究会
- ・ とちしん宇都宮経済クラブ
- ・ 匿名希望 4名

宇都宮市役所 みんなでまちづくり課
まちづくりグループ
TEL:028-632-2886
<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>



指定管理者:公益財団法人とちぎYMCA
〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉5丁目9-7
TEL:028-661-2778 FAX:028-689-2731
URL:<http://u-machipia.org>

開館時間 午前9時から午後9時30分まで(日祝は午後5時まで)
休館日 年末年始(12月29日～翌年1月3日) 臨時休館(施設点検等)半年ごと年2回
アクセス ライトライン 各停「駅東公園前駅」(上り・下り)下車徒歩7分程度
バス JR宇都宮西口から平出工業団地行きまたは柳田車庫行き「白楊高校」下車 徒歩5分程度
電車 JR宇都宮駅東口から徒歩15分程度
センター内駐車場 28台



